

写真7 食堂居間（4床室を転用）]



写真8 廊下

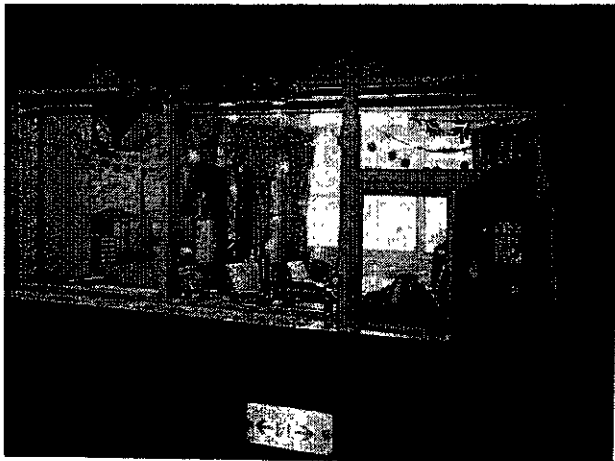


写真9 寮母室を居間として転用。ハードには手は加えていない。



写真10 寮母室を居間として転用。ハードにも手を加えている。

事例報告 その3：特別養護老人ホーム 旭が岡の家

1. 施設概要

| | | |
|------|-------------------------------------|---|
| 所在地 | 北海道函館市旭岡町78 | |
| 設置主体 | 旭ヶ岡の家建設期成会 | |
| 運営主体 | 社会福祉法人「函館カリタスの園」 | |
| 開設時期 | 1977年 | |
| 併設機能 | デイサービス、生活支援ハウス、特定有料老人ホーム、在宅介護支援センター | |
| 設計監理 | 前田設計 | |
| ハード | 敷地面積 | 約3万坪 (約99000㎡) |
| | 建築面積 | 約1750㎡ → 約2860㎡ |
| | 延床面積 | 3853.07㎡ → 4683.23㎡ |
| | 構造 | R/C造3階建て → R/C造地上3階地下1階建て |
| 利用者 | 定員 | 78名 (77年) → 81名 (81年) → 83名 (87年) → 90名 (99年) |
| | 概要 | 平均要介護度：4.00 痴呆性高齢者の割合：60% 平均年齢：85.00歳 |

2. 居住改善の経緯・特徴

| | | A棟 | B棟 | C棟 | D棟 (217.93㎡) | E棟 (386.0㎡) | F棟 (930.35㎡) |
|--------|-------|--|----------|--------------|-----------------|----------------|-----------------|
| ハード | 1977年 | 4B×9 2B×9 54 | 2B×8 16 | 1B×8 8 | | | |
| | 1981年 | ↓ 54 | 1B×16 16 | 1B×2 3B×3 11 | | | |
| | 1987年 | ↓ 51 | ↓ 16 | ↓ 11 | 1B×5 5 | | |
| | 1991年 | ↓ 46 | ↓ 16 | ↓ 11 | ↓ 5 | 1B×5 5 | |
| | 1999年 | 4B×9 2B×9 36 | 1B×16 16 | 1B×2 2B×3 8 | 1B×5 5 | 1B×5 5 | 1B×20 20 |
| ハードの方針 | | 個室が多いと補助金の割合が下がったので、やむを得ず4床室主体とした。 開設時から面積的に余裕あり（廊下幅3m、広いロビー）。それゆえ制度変化に増築や改修に対応可。 4回の増築を行い個室化を推進。現在、個室化率80%以上。 居住環境の向上を目的とするため、定員は78名→90名と12名増に抑えている。 | | | | | |
| ソフトの方針 | | 介護保険導入後、施設内を3ユニットに分け、職員固定として運営している。 キッチンでの食事づくりを試したが、自立度の低下により中止。 日常をいきいきと共用空間にて過ごしてもらうため、多くの文化的プログラムを用意。 | | | | | |
| 運営の特徴 | | 施設でターミナルケアまで行う方針（看取りは300名、病院では20名以下）。 ボランティア（5000人/年、20名/日）の参加率が高い。音楽、ダンス、お花、書道、焼き物等。 家族会、後援会（合わせて約1600名）が物心両面から支援を行う。 | | | | | |

各棟の右の数値は実際の運用数（多床室を定員より少ない人数で使用しているケースがあるため数値は一致しない）

3. 居住改善の概要

| | | 改修前 (1977年) | 改修後 (2002年) | |
|--------|---------|-----------------------|-----------------------|------------|
| ユニット構成 | | 1 (78名) | 3 (1階：31名、2階：28名、31名) | |
| ソフト | 職員数 | 常勤：18～20名 | 常勤：名 パート：名 | |
| | 職員配置 | 4.5：1 (当時の配置基準 除く看護職) | 3.0：1 (除く看護職) | |
| | 勤務場所 | 全体 | ユニット固定 | |
| | 日中職員数 | 6～8名/全体 | 4～5名/ユニット ×3 | |
| | 勤務体制 | 早番 | 7：00～16：00 | 7：00～16：00 |
| | | 日勤 | 8：30～17：30 | 8：30～17：30 |
| 遅番 | | 10：00～19：00 | 11：00～20：00 | |
| 夜勤 | | 16：30～翌9：00 | 17：00～翌9：30 | |
| 夜勤数 | 3名 (全体) | 4名 (各ユニット1名+フリー1名) | | |

| | | 改修前 (1977年) | 改修後 (2002年) |
|-----|----------|----------------------------|-----------------------------------|
| ハード | 居室 | 4床室×9、2床室×17、個室×8 約770㎡ | 4床室×9、3床室×3、2床室×9、個室×48 約1440㎡ |
| | 廊下 | 727.2㎡ | 963.1㎡ |
| | 食堂 居間 | 1カ所 約100㎡ | 3カ所 約270㎡ |
| | キッチン | なし | 2カ所 |
| | デイルーム | 2カ所 約80㎡ | 4カ所 約240㎡ |
| | トイレ | 4カ所 (24名分は居室付き) | 4カ所 (32名分は居室付き) |
| | 寮母室 | 2箇所 | 3カ所 |

4. 行為からみた空間の使われ方の変化

| | | 改修前 (1977年) | 改修後 (2002年) |
|------------|-----|------------------|--|
| 居室 | ハード | 個室化率10%弱 | 個室化率 (多床室の一人利用含む) 80%以上 |
| 食事 くつろぎ | ハード | 食堂：1カ所 デイルーム：2カ所 | 食堂：3カ所 デイルーム：4カ所 |
| | ソフト | 個別ケアに対する意識あり | 個別ケア+ユニットケア |
| 入浴 | ハード | ハード未着手。旧態的な浴室計画。 | |
| | ソフト | 特浴・介助浴が各週2回 | 特浴・介助浴・中間浴が各週2回。一時、夜間浴を実施したがADLの低下に伴い中止。 |
| 排泄 | ハード | 食堂：1カ所 デイルーム：2カ所 | 食堂：3カ所 デイルーム：4カ所 |
| | ソフト | 個別ケアに対する意識あり | 個別ケア+ユニットケア |
| スタッフ 拠点 | ハード | 寮母室：2カ所 | 寮母室：4カ所 |
| | ソフト | 終日拠点として使用 | |

5. 取り組み時の課題

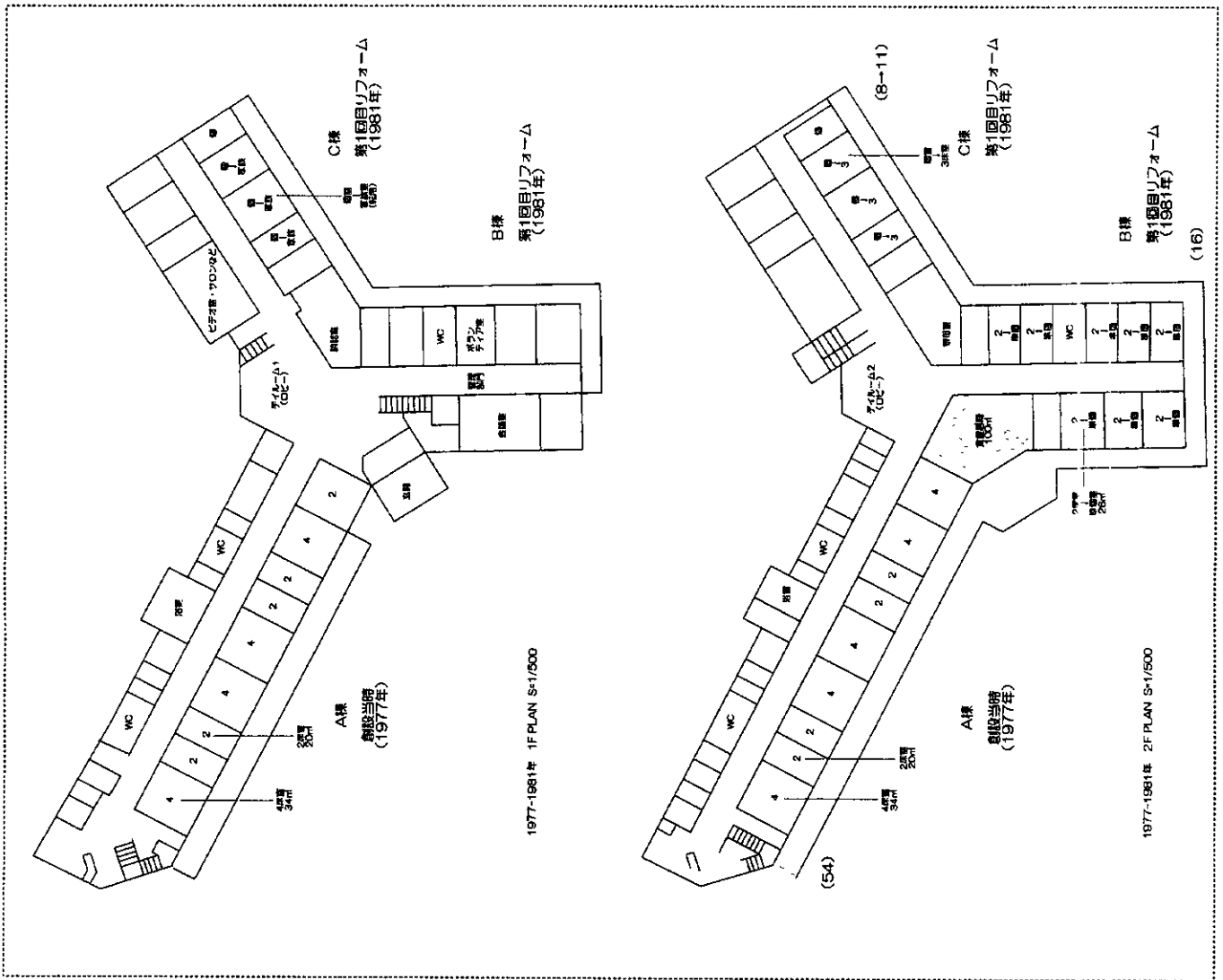
| | |
|-----|---|
| ハード | <p>2床室を準個室に改修した際 (81年 B 棟)、車椅子での利用が不可能となり入居者が限定された。ADLの低下に伴い、準個室付属のトイレの使いにくさが指摘されている。</p> <p>4床室 (A棟 重介護の方を対象に2床室として使用) の改修は、床暖房をしているため改修コストがかかり実施できていない。</p> |
|-----|---|

6. 改修費の内訳

| | |
|------|--|
| 改修費用 | 合計：2億159万円 (81年：860万 87年：2050万円 91年：5600万円 99年：11649万円) |
| 資金調達 | 法人自己資金：5663万円 寄付金：1億3896万円 後援会寄付金：600万円 |
| ほか | <p>居住改善については行政による補助金は受けていない。</p> <p>寄付金の殆どは当ホームの入居者および当ホームでなくなられた方からのもの</p> <p>法人自己資金分については新築部分の個室差額で回収 (年間500万弱 600円/室・日)</p> |

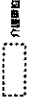
7. 今後の課題

| |
|--|
| <p>高齢者福祉を取り巻く環境は極めて流動的であり、ユニット化することについては様子を見ている。「老人同士助け合って生活する」という思想がADLの低下した高齢者にとってどこまで現実的なのか施設なりの答えが出ていない。</p> <p>4床室の個室化は今後の課題。同様に準個室の改修も今後の課題。</p> |
|--|

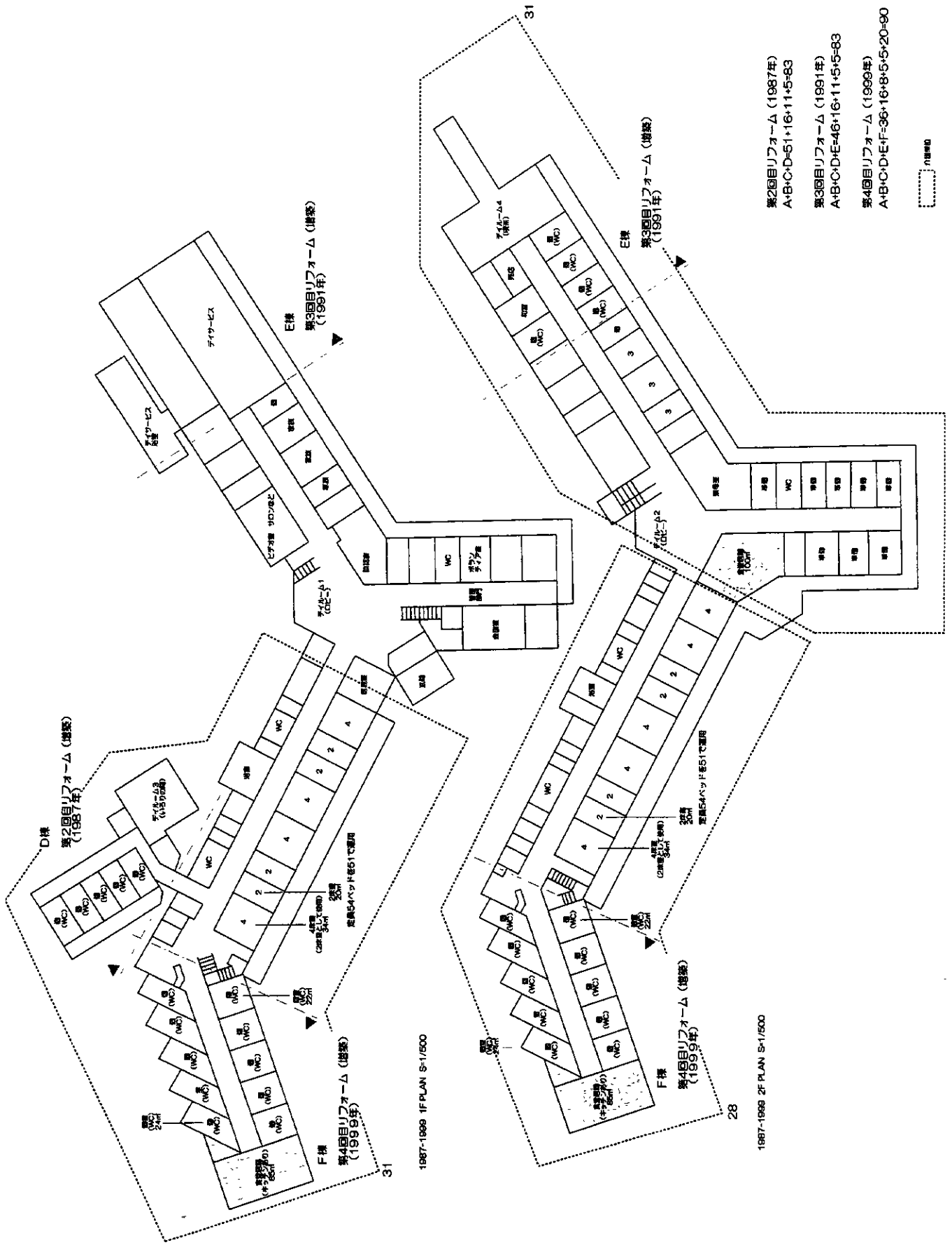


創設時 (1977年)
 A+B+C=54+16+8=78

第1回リフォーム (1981年)
 A+B+C=54+16+11=81



78→81



D棟 第2回リフォーム (増築)
(1987年)

E棟 第3回リフォーム (増築)
(1991年)

F棟 第4回リフォーム (増築)
(1999年)

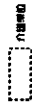
E棟 第3回リフォーム (増築)
(1991年)

F棟 第4回リフォーム (増築)
(1999年)

第2回リフォーム (1987年)
A+B+C+D=51+16+11+5=83

第3回リフォーム (1991年)
A+B+C+D+E=46+16+11+5+5=83

第4回リフォーム (1999年)
A+B+C+D+E+F=36+16+8+5+5+20=90



1987-1999 1F PLAN S-1/500

1987-1999 2F PLAN S-1/500



写真1 居室。



写真2 2床室を準個室へ。踏みこみの奥が準個室。



写真3 E棟 デイルーム（喫茶）



写真4 玄関奥のデイルーム（ロビー）



写真5 F棟・食堂。右奥にキッチンが見える。

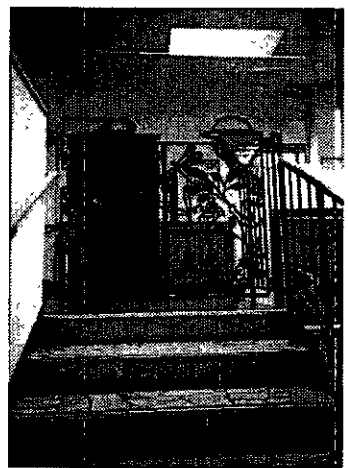


写真6 廊下からの転落を防ぐためのデザインされた扉

事例報告 その4：老人保健施設 きのこ

1. 施設概要

| | | |
|------|--|---|
| 所在地 | 岡山県笠岡市東大戸2912-3 | |
| 設置主体 | 社会福祉法人「新生寿会」 | |
| 運営主体 | 社会福祉法人「新生寿会」 | |
| 開設時期 | 96年 | |
| 併設機能 | 医療施設（療養型病床群）、ケアハウス、特養、グループホーム 在宅介護支援センター、ヘルパーステーション、訪問看護ステーション、在宅複合施設 | |
| 設計監理 | 設計事務所、リペアリングスタッフ（建築担当の施設専属職員） | |
| ハード | 敷地面積 | 2310.29㎡ |
| | 建築面積 | 1214.12㎡（含デイサービス） |
| | 延床面積 | 3499.525㎡（含D.S.） → 3499.525㎡（含D.S.）+2階南面テラス |
| | 構造 | 鉄骨造地上3階建て |
| 利用者 | 定員 | 80名 |
| | 概要 | 平均要介護度：3.80 |

2. 居住改善の経緯・特徴

| | |
|------------|--|
| 年 | 母体病院（きのこエスポワール病院）開設 痴呆性高齢者を対象にサービスを展開。当初は生活感の全くない空間であった。 生活を取り戻すための様々な試み（椅子、家庭的な設え、小グループ化を実践。効果が確認される。 老健を開設 |
| 96年 | <ul style="list-style-type: none"> ・いずれ個室化できるよう可変性を持つ建物を造りたいとの考えから鉄骨造を採用。 ・20名×4ユニットで運営開始。サテライトを進め定員を40名にした後、個室に改修予定であった。 ・当初から小規模化し、ユニット内キッチン設置などを実施。 ・しかしながら流れ作業的なケアを脱却することができなかった。 ・制度変更が進まないため、介護保険施行を機に改修に踏み切った。 |
| 2000年 | 10人を1ユニットとし職員配置を2:1とし、ユニット固定とする。 食堂兼デイルームを1ユニット毎に家具で仕切ったが落ち着いた雰囲気とはならなかった。 ユニットのエントランスを別にし、ユニット内を仕切りで分け、台所コーナーや食堂を設けた。 |
| ユニット運営の特徴 | 「各ユニットの独自性を重んじる」という理念に基づき、各ユニットに一定の裁量権がある。 <ul style="list-style-type: none"> ・食事：厨房メニューもしくは自前調理の選択性。すべてをユニットで調理することも可 ・空間整備についてスタッフの判断で変更できる。 ・各ユニットごとに予算（食材、家具購入など）があり、運用は各ユニットに委ねられている。 |
| リペアリングスタッフ | 修繕担当の建築スペシャリスト3名が法人職員として勤務。必要に応じて、簡易な改修ができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・成り立ちは痴呆性高齢者が病院内で壊した壁を修理するのが業務であったが、徐々に家庭的な雰囲気を出すのが得業となり今日に至る。 ・法人雇用のため、工期短縮の必要性に迫られず入居者への負担を軽減できる 例えば、トイレを一日一部屋づつ増設など。 |
| 現場の意見の反映 | ユニット改修の際は、打ち合せ段階で各ユニットの要望をユニット職員が提出。スタッフは目の前で空間が変わるのを経験し、ケアをより良くする方法として空間の力を理解した。 |

3. 居住改善の概要

| | | 改修前 | 改修後 |
|--------|-------|--|--|
| ユニット構成 | | 4 (20名×4) 介護単位：40名×2 | 8 (10名×8) |
| ソフト | 職員数 | 常 勤：34名（含看護職、栄養士、ST） パート：緊急時のみ | 常 勤：5名/ユニット×8（含看護職、栄養士、ST） パート：緊急時のみ |
| | 職員配置 | 2.3:1（看護職含む） | 2.0:1（看護職含む） |
| | 勤務場所 | フロア固定（2ユニット40名） | ユニット固定 |
| | 日中職員数 | 4-6/1ユニット20名（看護職含む） | 2-3/1ユニット10名（看護職含む） |
| | 勤務体制 | 早 番： 7:00-16:00 日 勤： 9:00-18:00 遅 番： 10:00-19:00 夜 勤： 18:00-翌9:00 | 早 番： 7:00-16:00 日 勤： 9:00-18:00 遅 番： 12:00-21:00 夜 勤： 21:00-翌7:00 |
| | 夜勤数 | 3名（全体） | 3名（4ユニット毎：2名 全体：1名） |

| | | 改修前 | 改修後 |
|-----|------|---|-----------------|
| ハード | 居室 | 4居室×16、2居室×8（各部屋便所付） 750.08㎡（便所含）、654.08㎡（除便所） | |
| | 廊下 | 70㎡×4ユニット | リビング（含む食堂）として活用 |
| | 数・面積 | 4カ所（ユニット毎）・各70㎡ | 8カ所（ユニット毎）・各70㎡ |
| | リビング | 4カ所 | 8カ所 |
| | キッチン | 一体的空間構成 | 分節化された空間構成 |
| | 形態 | 各居室付き | 各居室付き |
| | トイレ | 一般浴、機械浴、個浴 | 一般浴、機械浴、個浴 |
| | 浴室 | 2カ所 | なし |
| | 寮母室 | | |

4. 行為からみた空間の使われ方の変化

| | | 改修前 | 改修後 |
|------------|-----|--|----------------------------------|
| 食事 くつろぎ | ハード | 2ユニットで一空間（140㎡） 各ユニット毎にキッチンあり | 1ユニット毎に分割（70㎡） 各ユニット毎にキッチンあり |
| | ソフト | 厨房からの食事 | 食堂、畳コーナーに分節化 ユニット毎に食事メニューを選択可 |
| スタッフ 拠点 | ハード | 各フロアごとに寮母室を設置 | 壁を撤去し、地域に開放。子供会などで利用。 |
| | ソフト | 終日各フロア（40名）の拠点として利用 入居者が寮母室に誘導されていた | 各ユニット内で業務 居間や食堂に自然で過ごすようになる |

5. 取り組み時の課題

| | |
|-----|--|
| ハード | 各ユニットが既に保有していた家具まで念頭におかず打ち合わせをし配置に問題が生じた。 工具などを痴呆性高齢者のまわりにおかないなどの配慮が必要。 |
| ソフト | 特段の問題は生じていない。 |

6. 改修時における留意点とポイント

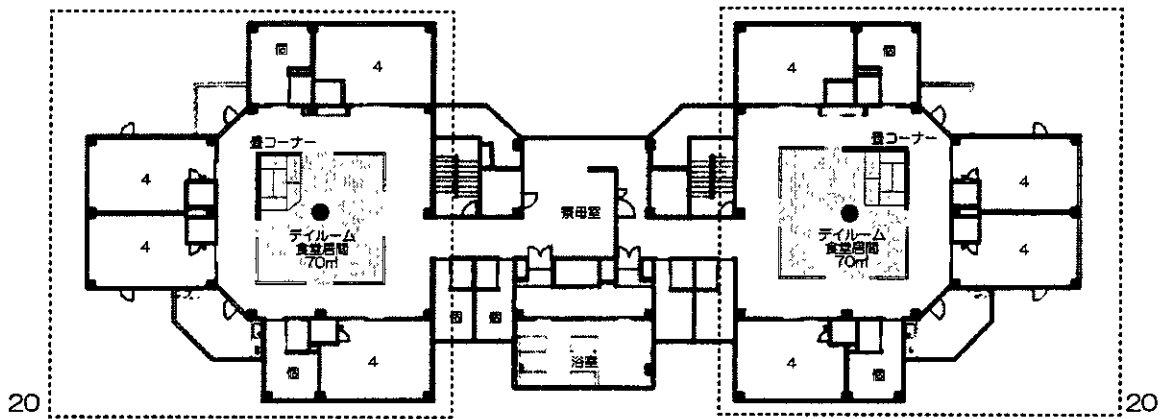
| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・利用者とスタッフが身近に感じられる家庭的な雰囲気を出すこと ・各ユニットの個性と独自性を重んじること ・可変性の有るフレキシブルな形態を採用すること ・入居者への負担を少なくすること ・消防法など各種法規への対応を行うこと ・低コストをこころがけること <p>具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各ユニットの判断を尊重したため、ユニット毎に玄関のしつらえ、食堂の位置、畳コーナーの位置などが異なる。 2. 再改修を想定し、固定式でなく簡易パーティションを使用。改修を想定して改修時に鉄骨造で建築。 3. 天井照明およびスプリンクラーをいじらないように壁を天井までとしない。 4. モジュールを活用し、リペアリングスタッフが工房で組み立てまで行う。現場での業務時間を削減。 5. 消防法（避難路確保、可燃物の廊下設置不可）に対応できるように家具などは固定としない。 6. 和風家具、障子、鴨居などで和の雰囲気を演出。家具などは家庭使用のもの。 7. 老健の痴呆加算（回廊型）廃止により、回廊を維持する必要がなくなったこともプランに影響を与えた。 |
|---|

7. 改修費の内訳

| | |
|------|---|
| 改修費用 | 1000～2000万程度 |
| 資金 | 自己資金。大規模修繕の補助金は利用していない。 |
| ほか | リペアリングスタッフを雇用しているため改修に関わる人件費、間接経費を削減できる。 改修を念頭に鉄骨造であったため、工事費が安く済み、自由度も増した。 |

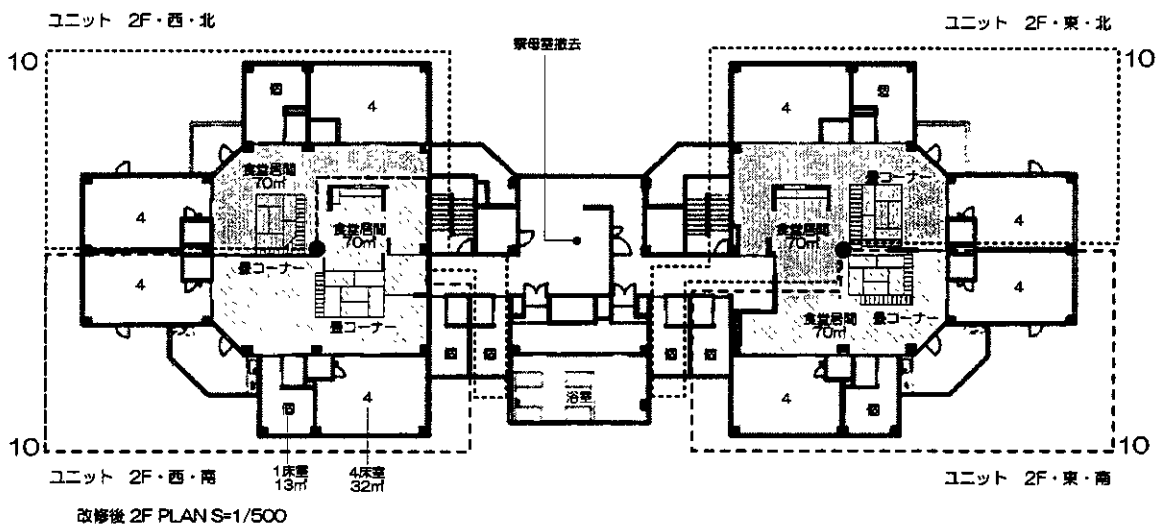
8. 今後の課題（サテライトに向けて）

| |
|--|
| <p>定員80名だが、サテライトケアを進めていくことで、定員が40名にできれば全室個室化できる。 サテライトによって地域に分散した入居者分を含めて一施設と認められるようになることを希望している。 管理業務、厨房業務、医療は母体に設けバックアップ機能として位置づけ、サテライトはケアに専念する。</p> |
|--|

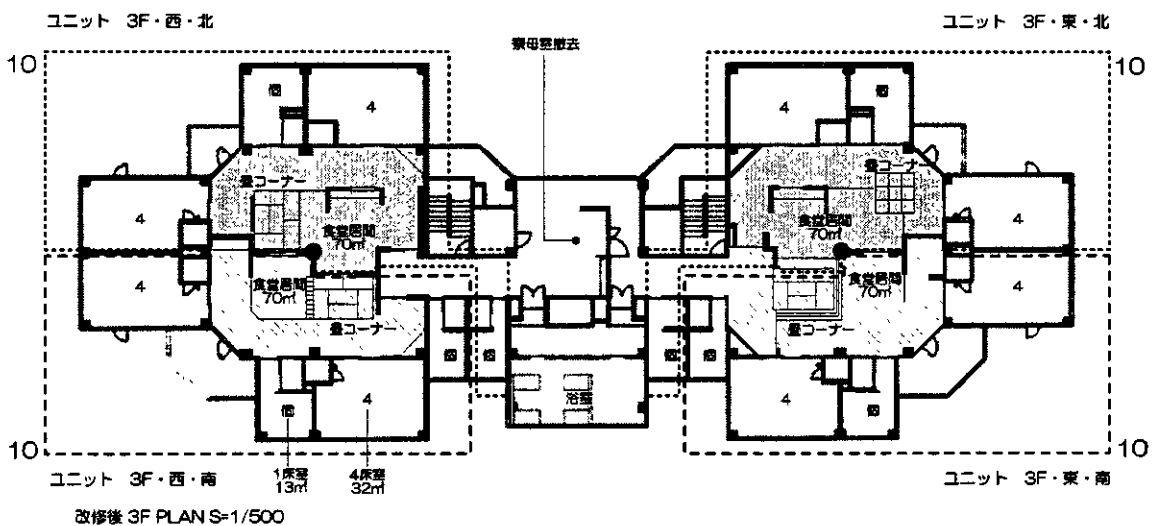


改修前 2F・3F PLAN S=1/500

介護単位



改修後 2F PLAN S=1/500



改修後 3F PLAN S=1/500



写真1 ユニットの玄関その1



写真2 ユニットの玄関その2

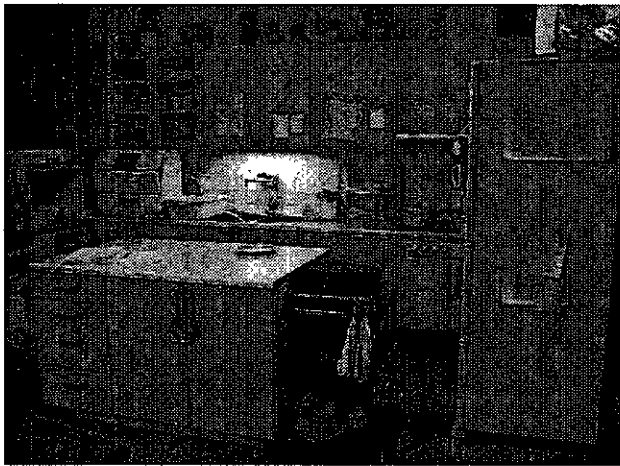


写真3 キッチン。ほとんどの食事をここで創ることも。



写真4 食堂居間の畳コーナー

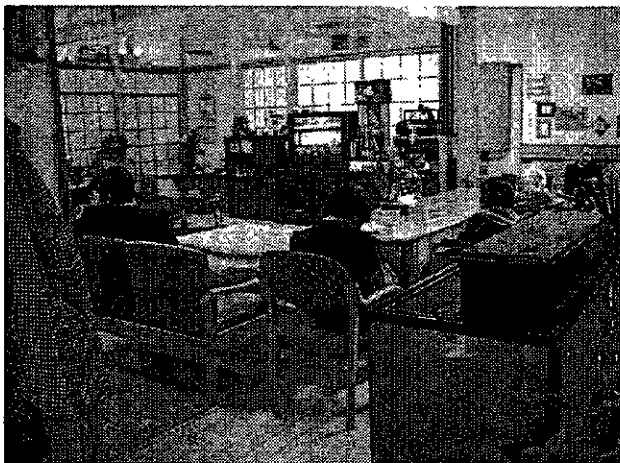


写真5 食堂居間の畳コーナー。スプリンクラーの関係で壁は天井までではない。

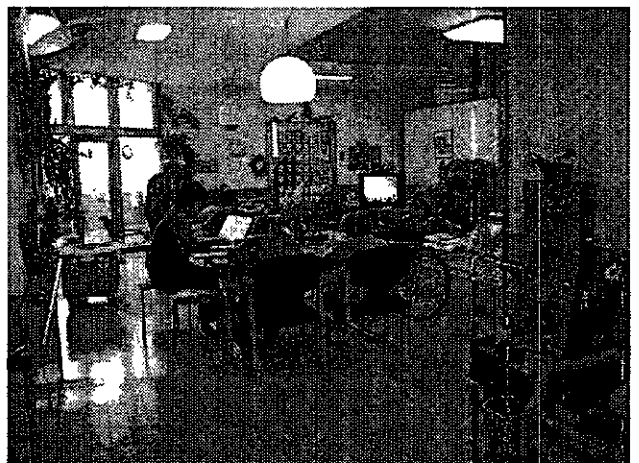


写真6 別ユニットの食堂居間。寮母の記録はここで。

事例報告 その5：特別養護老人ホーム いくの喜楽苑

1. 施設概要

| | | |
|------|---|--------------------------------------|
| 所在地 | 兵庫県朝来郡生野町竹原野240 | |
| 設置主体 | 社会福祉法人「尼崎老人福祉会」 | |
| 運営主体 | 社会福祉法人「尼崎老人福祉会」 | |
| 開設時期 | 92開設 | |
| 併設機能 | ケアハウス、デイサービス、在宅介護支援センター | |
| 設計監理 | 竹山清明（京都府立大学・生活空間研究所）、（株）山田建築構造事務所 | |
| ハード | 敷地面積 | 5160.05㎡ |
| | 建築面積 | 2243.34㎡（含D.S.） |
| | 延床面積 | 2632.32㎡（含D.S.） |
| | 構造 | R.C造2階建て（居住部門は1階のみ、2階は管理部門・デイサービス部門） |
| 利用者 | 定員 70名（ショート20名を含む） → 現在は70名（ショート12名を含む） 概要 平均要介護度：4.01 | |

2. 居住改善の経緯・特徴

| | |
|--------------------------|---|
| 1992年 2002年6月 | 開設当初より食堂分散、リネン室分散、個室的多床室など、小規模ケアをしやすい空間的配慮あり ユニットケアに向けて介入。 スーパーバイザーとして建築計画分野の博士課程学生が介入。 |
| 2003年1月 2003年3月 今後 | 職員配置をユニット毎に固定化。 浴室増改築。東と西の廊下の一部を小リビングに改修。 キッチンの整備、ユニット間の仕切りなど、ハードの細かな対応を予定 |
| スーパーバイザー のかかわり | 勉強会（ワークショップなど）を定期的に重ねる。 ・テーマは環境整備やユニットケアにおける職員のケアに対する考え方など ・ワークショップにおいては入居者に対する対処の仕方、考え方を具体例をあげながら考える。 ・調査に基づく客観的データを提示し、介入の効果や課題を把握し、現場にフィードバック。 ・改修に対する要望が現場のスタッフから上がってくる。 寮母室を全ユニット共通から各ユニット分散（各ユニットのキッチンを利用） |

3. 居住改善の概要

| | | 介入前 | 介入後 | |
|--------|----------|---|---------------------------------------|----------------|
| ユニット構成 | | 3（22名×2、26名×1） 南ユニット：痴呆・軽度の身体介護・ショート 西ユニット：重度 東ユニット：中～重度 | 3（22名×2、26名×1） | |
| ソフト | 職員数 | 常勤 21名 パート：7名 | 常勤：6名/ユニット×3 パート：3-6名/ユニット×3 | |
| | 職員配置 | 2.56：1（含看護職）/3.01：1（除看護職） | 2.3：1（含看護職）/2.5：1（除看護職） | |
| | 勤務場所 | 全体 | ユニット固定 | |
| | 日中職員数 | 10-11/全体 | 4-5/ユニット×3 | |
| | 勤務体制 | 早番 | 7：30-16：00 | 早番：7：30-16：00 |
| | | 遅番 | 12：00-20：30 | 日勤：10：00-18：30 |
| 日勤 | | 8：30-17：30（パート） | 遅番：12：00-20：30 | |
| 夜勤 | | 17：00-翌10：00 | 日勤：8：30-17：30（パート） 夜勤：17：00-翌10：00 | |
| 夜勤数 | 3名（全体） | 3名（ユニット毎） | | |
| ハード | 居室 | 個室の4床室×11、個室の2床室×8、個室10 729.03㎡（4床室：40.79㎡、2床室：19.36㎡、個室：12.57㎡） | | |
| | 廊下 | 455.6㎡ | | |
| | 食堂 居間 | 数・面積 | 3カ所（274.07㎡） | |
| | | キッチン | 2カ所（南ユニットなし） | |
| | デイルーム | 36.09㎡ | 8.3㎡ | |
| | トイレ | 3カ所+α（各ユニットに集中トイレ、一部分散トイレあり） | | |
| | 浴室 | 一般浴1、機械浴2、個浴1 | 一般浴1、機械浴3、個浴2 | |
| 寮母室 | 1カ所 | 1カ所 | | |

4. 空間の使われ方の変化

| | 介入前 | 介入後 |
|--------|---|--|
| 食事くつろぎ | ユニットによる介護量のばらつきを平均化するため、入居者を別ユニットへ移動させていた。 | ユニットで固定して食事。 (ユニットの職員配置に傾斜をつけ対応) →スタッフによる厨房への個別対応注文が増加。 →スタッフが食堂の場づくりに熱心になった。 |
| 排泄 | 洗濯室で一括保管のおむつをワゴンに乗せ、各居室を巡回。南ユニット汚物室へ。 時間・回数は固定(一括処遇) | 居室内におむつを常備 汚物はユニットトイレへ 時間・回数は入居者によって異なる(個別ケア) |
| 入浴 | 午前:デイ、午後:特浴、夜間 一般浴 脱衣室が1箇所のため、一方通行の流れ作業 | 03.3に増改築予定 マンツーマンでの入浴が可能に |
| スタッフ拠点 | 寮母室:終日利用 →痴呆入居者は寮母室周辺に誘導される | 寮母室:夜勤のみ利用 日中は各ユニットのキッチンが拠点 →入居者は誘導しなくてもデイルームに滞在 |

5. 取り組み時の課題

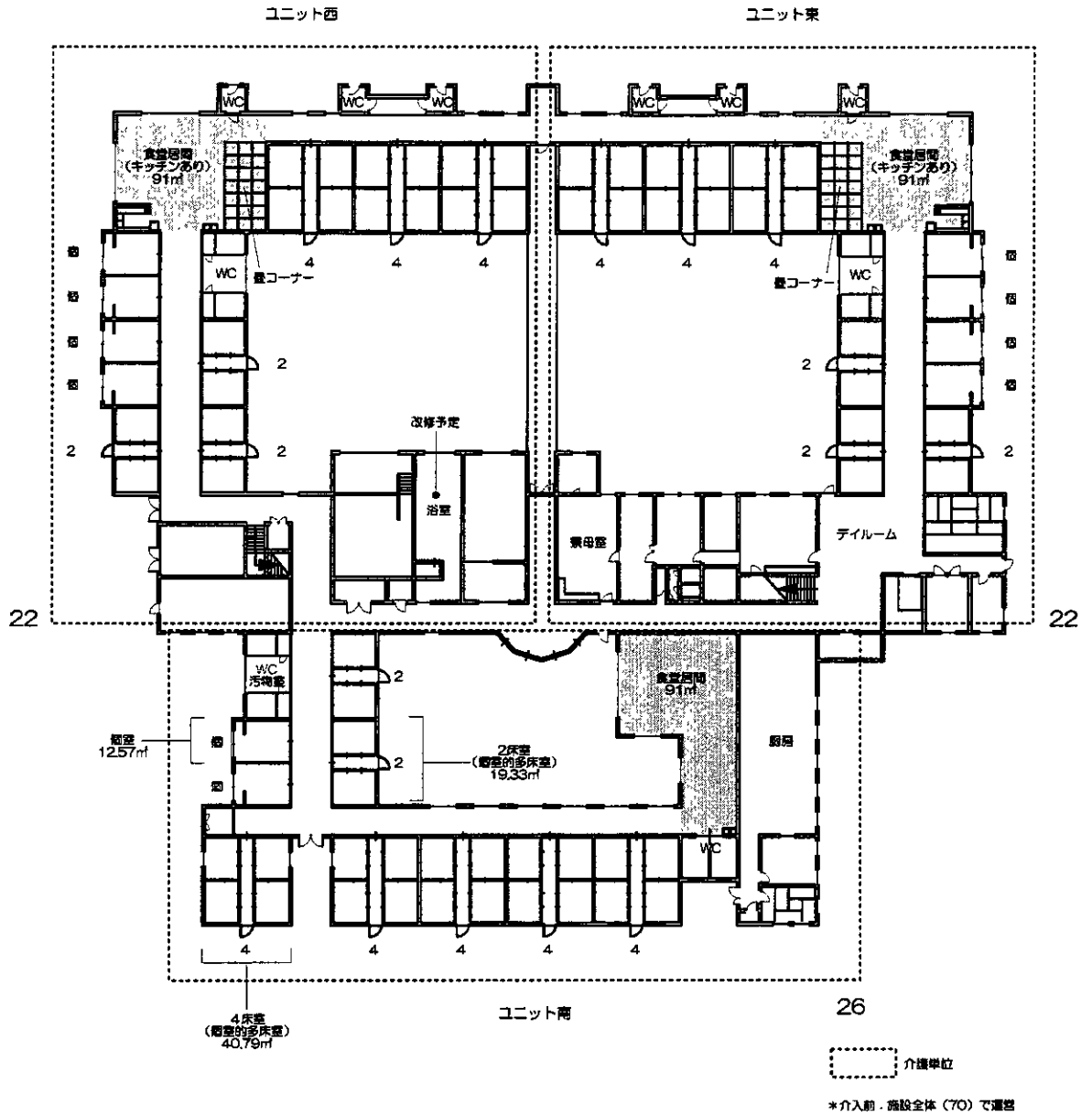
| | |
|-----|---|
| ハード | 南ユニットにキッチン不備(キッチン設置による変化が大きい入居者像だけに今後の課題) 浴室に関してはハードの改修をしながらケアが改善されない。 |
| ソフト | ユニット固定の職員配置となり勤務時間の調整が困難(主任の勤務体制不規則) 他ユニットの入居者を覚えられないため、夜勤時の対応が困難。 |

6. 改修費の内訳

| | |
|------|---------------------------------------|
| 改修費用 | 2000万程度+設備代(浴室工事のみ) |
| 資金 | 町から「浴室改修工事」という名目で一定割合の補助金が交付。残りは自己資金。 |

7. 今後の課題

| | |
|-----|---|
| ハード | 南ユニットにキッチン整備予定 浴室について全面更新予定(延床面積も増加) |
| ソフト | 職員の研修 ショートについてもユニットケアを導入予定 |



2F PLAN S=1/500



写真1 西ユニットの畳コーナー



写真2 南ユニットの食堂。今後、分節化の予定。



写真3 南食堂。キッチンがないので、代用。やはり、生活感に乏しい。



写真4 寮母室前の喫煙スペース。昔はここに入居者が誘導されて一日を過ごしていた。



写真5 南廊下。個室の4床室の窓が廊下側にみえる。



写真6 職員と建築スタッフによるワークショップ風景

事例報告 その6：特別養護老人ホーム 船尾苑

1. 施設概要

| | | |
|------|--|---|
| 所在地 | 群馬県北群馬郡吉岡町上野田3471 | |
| 設置主体 | 社会福祉法人「薫英会」 | |
| 運営主体 | 社会福祉法人「薫英会」 | |
| 開設時期 | 1994年 | |
| 併設機能 | デイサービスセンター、知的障害者のための入居更正施設、通勤寮、福祉ホーム、グループホーム | |
| 設計監理 | (株)清水設計事務所 | |
| ハード | 敷地面積 | 5,134㎡ (1994) → 5,134㎡+ 1,365㎡ (2001) |
| | 建築面積 | 1768.87㎡ (1994) → 2294.15㎡ (2001) |
| | 延床面積 | 1615.86㎡ (1994) → 2100.22㎡ (2001) |
| | 構造 | R/C造平屋建て |
| 利用者 | 定員 | 65名 (開設時：55名 → 2001年：65名) |
| | 概要 | 平均要介護度：3.50 車椅子利用者：67% (約40名)、知的障害をもつ高齢者：約30% |

2. 居住改善の経緯・特徴

| | |
|-----------|--|
| 1978年 | 知的障害者更正施設開所。その後、通勤寮、地域ホーム、グループホームなどを整備。 |
| 1990年頃 | 高齢化する知的障害者の生活の場を模索 |
| 1994年 | 特別養護老人ホームを開設 |
| 1990年代後半 | 個別ケアへの取り組みを実施 |
| 2001年 | 個室（一部2床室）+小人数での食事が可能なハードで10名分の新棟を増設 |
| 施設整備と運営方針 | 個別ケアを行ううえで具現化したハードが結果としてユニット空間となった。 施設長、現場スタッフが設計打ち合わせに毎週参加 ハードにはお金をかけすぎず、絶えず代謝を続けていけることが重要。 |

3. 居住改善の概要

| | | 改修前 | 改修後 | |
|--------|-----------|------------------------------|--|-------------|
| ユニット構成 | | 1 (55名×1) | 旧棟：24名、管理棟+旧棟：31名、新棟：10名 | |
| ソフト | 職員数 | 常勤：9名 (含看護職) パート：約9名 | 常勤：12名 (含看護職) パート：7名 (夜勤対応)+4名 (日勤のみ) | |
| | 職員配置 | 3.0：1 (含む看護職) | 3.0：1 (含む看護職) | |
| | 勤務場所 | 全体 | 全体 (日によって配属されるユニットが違う) | |
| | 日中職員数 | 6/全体 | 10/全体 | |
| | 勤務体制 | 早番 | 7：30-16：30 | 7：30-16：30 |
| | | 日勤 | 9：30-18：30 | 9：30-18：30 |
| | | 遅番 | 10：30-19：30 | 10：30-19：30 |
| 夜勤 | | 17：40-翌9：40 | 17：40-翌9：40 | |
| 夜勤数 | 2名 (全体) | 3名 (全体) | | |
| ハード | 居室 | 4床室×13、2床室×1、1床室×1 460.9㎡ | 4床室×13、2床室×3、個室×7 618.2㎡ | |
| | 廊下 | 314.5㎡ | 372.7㎡ | |
| | 食堂 | 1カ所 (123.5㎡) | 4カ所 (333.1㎡) | |
| | 居間 | なし | 2カ所 | |
| | キッチン | なし | 2カ所 | |
| | デイルーム | 71.4㎡ | 0.0㎡ | |
| | トイレ | 3カ所 (集中トイレ) | 3カ所 (集中トイレ) + 新棟は居室付き | |
| 浴室 | 一般浴1、特殊浴1 | 一般浴2 (男女別)、特殊浴1 | | |
| 寮母室 | 1カ所 | 2カ所 | | |

4. 行為からみた空間の使われ方の変化

| | | 改修前 | 改修後 |
|------------|-----|-----------------------|--------------------------------------|
| 居室 | ハード | 4床室主体 問題行動対応としての個室 | 新棟（12名）は個室と2床室主体 |
| | ソフト | 居室扉、常時開放 | 個室入居者の生活が落ち着く 家族の訪問および滞在時間が増える。 |
| 食事 くつろぎ | ハード | 食堂：1カ所 通路としての廊下 | 食堂：4カ所（2カ所にキッチンあり） 廊下に椅子・テーブルなど配置 |
| | ソフト | 全員での一斉の食事。 | 各ユニットで食事（新棟は食事づくりも） 廊下での交流など |
| 排泄 | ハード | 集中3カ所 | 新棟は各居室付き |
| | ソフト | | トイレ誘導のための介護量が減る |
| 入浴 | ハード | 一般浴1 機械浴1 | 一般浴2、機械浴1 |
| | ソフト | 日中時間帯のみ | 夜間入浴実施 |
| スタッフ 拠点 | ハード | 寮母室あり（1カ所） | 寮母室あり（2カ所） 新棟に1カ所増設 |
| | ソフト | 長い移動距離 | 移動距離の短縮化 新棟内では食堂付近にて業務 |

5. 取り組み時の課題

| | |
|-----|--|
| ハード | 新棟のキッチンは入居者が調理することを想定せずに計画を進めてしまった。 キッチンのカウンターも後からつけた。 居室の扉の色彩および形状、居室鍵の形状などに課題が残った。 |
| ソフト | 上記の理由により、食堂に電気調理器具を整備し食事づくりを実施。 |

6. 改修費の内訳

| | |
|------|--|
| 改修費用 | 1億4328万（新棟部分 1億2747万円、 既存棟改修部分 1581万円） |
| 資金 | 国庫補助5465万円（新棟4025万円 既存改修 1440万円） |

7. 今後の課題

| | |
|-----|--------------------------------|
| ハード | 既存棟の居室環境の向上。集中トイレ。 |
| ソフト | 食事づくりへの参加の他ユニットへの展開 廊下部分の活用 |

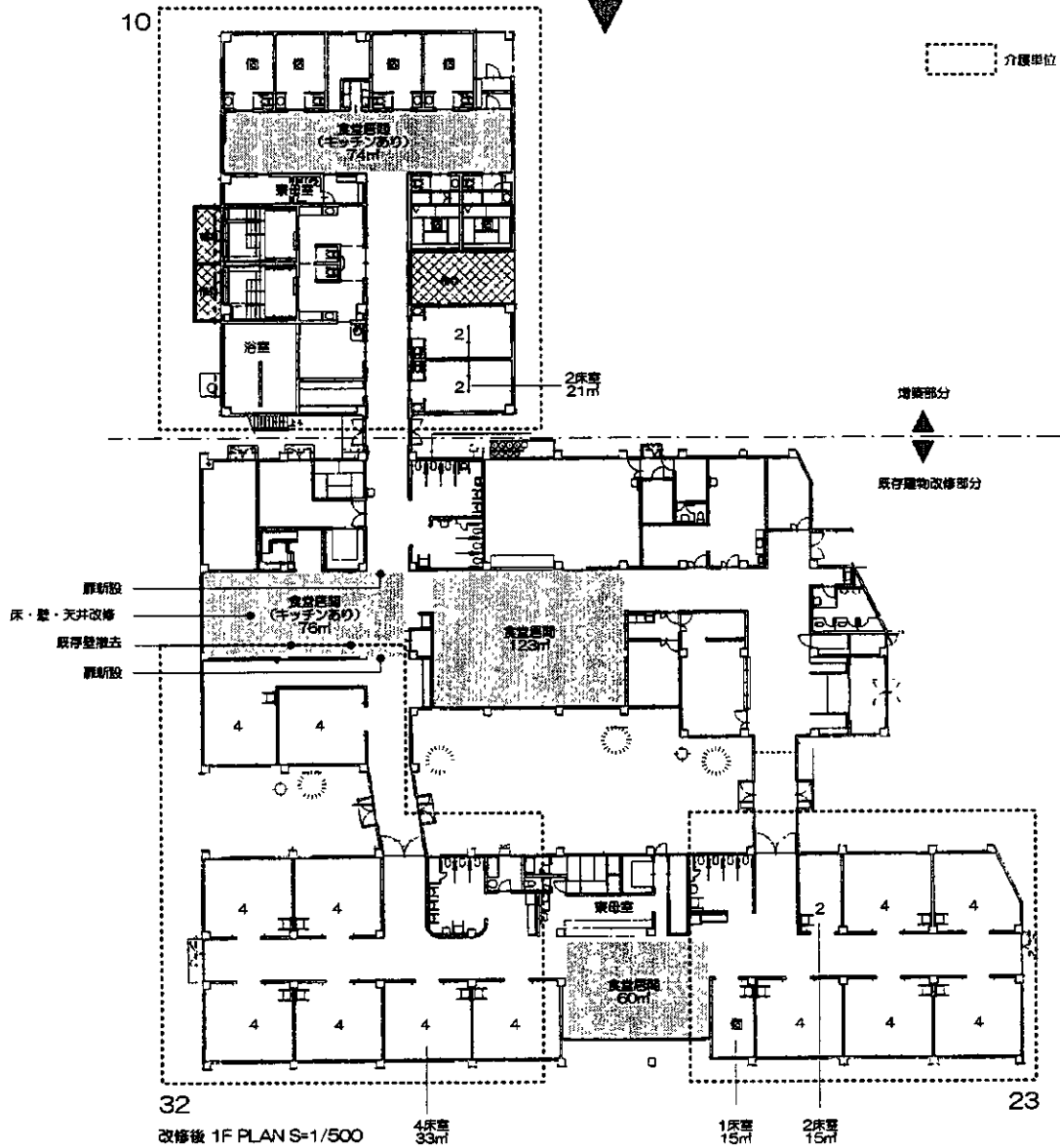
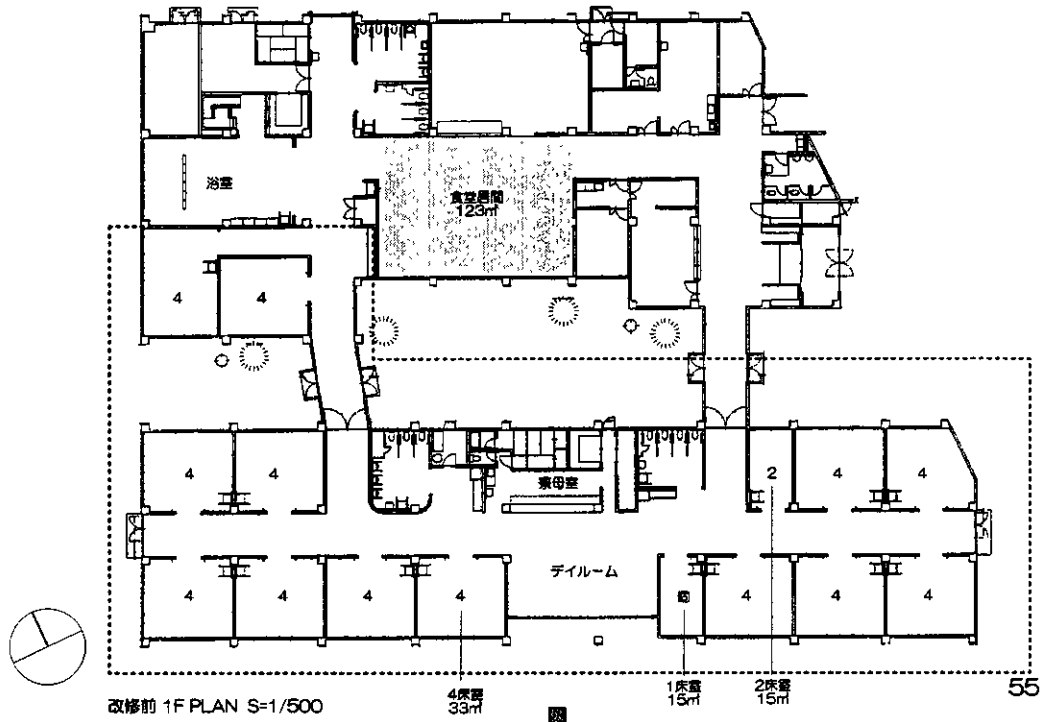




写真1 個室入り口まわり・踏み込みあり



写真2 廊下 空間を分節化



写真3 既存棟部分の食堂。分節化にも限界がある



写真4 新棟部分の食堂。居室近くにはあるが、空間としての落ち着きとしては物足りない。



写真5 新棟部分の食堂。奥のキッチンが入居者の利用を想定していなかった。簡易コンロのみそ汁を温めている。



写真6 既存棟部分の改修した食堂。分節化が図られ落ち着いた雰囲気となっている。

視察報告 その7：特別養護老人ホーム 大阪新生苑

1. 施設概要

| | | |
|------|-----------------------------------|------------------------------------|
| 所在地 | 大阪府松原市阿保3-14-22 | |
| 設置主体 | 社会福祉法人「聖徳会」 | |
| 運営主体 | 社会福祉法人「聖徳会」 | |
| 開設時期 | 1975年 | |
| 併設機能 | デイサービス、特別養護老人ホーム、ケアハウス、診療所、デイケアほか | |
| 設計監理 | (株) 日吉設計 | |
| ハード | 敷地面積 | 2089.66㎡ |
| | 建築面積 | 933.1㎡ |
| | 延床面積 | 3402.92㎡ |
| | 構造 | R C造5階建て+R C造3階建て |
| 利用者 | 定員 | 改修前 88名(シヨート含む) → 改修後: 86名(シヨート含む) |
| | 概要 | 平均要介護度: 3.50 |

2. 居住改善の経緯・特徴

| | |
|------------|--|
| 1980年 | 旧館(30名)開設。 |
| 1986年 | 新館(66名)の増設。旧館1階部分(8名)を新館に移し、計88名となる。 かねてからの懸案だった新館の空調施設の更新の検討を設計事務所に依頼。 |
| 1999年 | 電気や照明など同時に改修を行った方が、手間・予算共に有効であるとの判断を下す。 府と調整の上、一部の居住改善も併せて実施することとなった。 |
| 2000年 | 隣接地にある特養(1970年開設)の全面改築が終了。100名。 |
| 2000~2001年 | 改修・改築工事実施(新館のみ)。 |

3. 居住改善の概要

| | | 改修前 | 改修後 |
|---------|-------------------------------------|---|---|
| ユニット構成 | | 5(新旧・フロア毎) 旧館(2階:11、3階:11) 新館(2階:24、3階:22、4階:20) | 5(新旧・フロア毎) 旧館(2階:14、3階:12) 新館(2階:22、3階:24、4階:18) |
| | | 旧館:痴呆、新館2・3階:重中度要介護、新館4階:軽度要介護 | |
| ソフト | 職員数 | 常勤:20名(含看護職) パート:19名 | 常勤:20名(含看護職) パート:24名 |
| | 職員配置 | 2.4:1(含看護職) | 2.1:1(含看護職) |
| | 勤務場所 | 新2階/3-4階/旧2-3階(入浴、食事は全体) | 新旧・フロア毎(入浴、食事は全体) |
| | 日中職員数 | 17名 | 19名 |
| | 勤務体制 | 早番: 7:30-16:30 日勤: 9:30-18:30 遅番: 10:30-19:30 夜勤: 17:00-翌10:00 | 早番: 7:30-16:30 日勤: 9:30-18:30 遅番: 10:30-19:30 夜勤: 17:00-翌10:00 |
| | 夜勤数 | 3名(全体) | 3名(全体) |
| 居室 | 6床室×1、4床室×19、2床室×2、個室×2 854.275㎡ | 4床室×19、2床室×5 826.275㎡ | |
| 廊下 | 380.6㎡ | 375.35㎡ | |
| 食堂 | 2カ所(131.81㎡) | 4カ所(237.79㎡) | |
| 居間 | 2カ所 | 2カ所 | |
| デイクォーター | 3カ所(159.94㎡) | 2カ所(88.84㎡) | |
| トイレ | 旧館各階(2箇所) 新館各居室付き | 旧館各階(2箇所) 新館2・4階各居室付き | |
| 浴室 | 一般浴室、特殊浴室 各1 | 一般浴室、特殊浴室 各1 | |
| 寮母室 | 有り(5箇所) | 有り(5箇所) | |

4. 行為からみた空間の使われ方の変化

| | | 改修前 | 改修後 |
|------------|-----|---|--|
| 居室 | ハード | 一般的4床室 | 障子風のパーティションでベッドまわりを個別化 キュービクルカーテンを設置 |
| | ソフト | | 睡眠状態が落ち着いた。 |
| 食事 くつろぎ | ハード | 新館4階：食堂なし 新館3階：狭い食堂 新館2階：食堂入り口に段差 | 新館4階：食堂設置 新館3階：テイルームと食堂を一体化 新館2階：食堂入り口の段差を改善 |
| | ソフト | 新館4階：3階および廊下にて食事 新館2・3階：一部入居者は居室で食事 | 新館4階：食堂にて食事（移動介助が軽減） 新館2・3階：殆ど入居者が食堂で食事 |
| 排泄 | ハード | カーテンによる仕切 車椅子利用ができないトイレスペース | アコーディオンによる仕切（扉はスペース無理） 車椅子用トイレの設置 |
| | ソフト | 排尿コントロールができるおむつ使用者あり | プライバシーへの最低限の配慮 一部入居者がおむつからトイレ誘導へ |
| 入浴 | | ハード未着手。旧態的な浴室計画のため個別ケアできない。 | |
| スタッフ拠点 | | 変更なし（新旧各フロアごとに1カ所） | |

5. 取り組み時の課題

| | |
|-----|---|
| ハード | <p>大規模修繕の補助金は築15年以上（当時）の設備の老朽化が主であり、居住環境の改善のための利用は項目としてはあるが、適応困難。このため、自己資金でまかなえる範囲内で居住改善を行った。</p> <p>大阪府の場合、仕様は同一のものを使わなければならない。たとえば、トイレの仕切をカーテンからアコーディオンに変えることはできない。床材を長尺シートからフローリングにすることはできない。自己資金でまかなった。</p> |
| ソフト | <p>エアマット（電気）利用者への対応、給排水工事の際、食事や入浴などに影響がでる。敷地内の別施設を活用して対応した。</p> <p>介護保険のため改修の実施に関して、入居者と家族の了解を取ることが契約上不可欠となり、入居者にとって良いことを明確に伝えるような体制を確立すること</p> |

6. 改修費の内訳

| | | |
|------|-----------------------------|---------|
| 改修費用 | 3億6540万円 | |
| 内訳 | 共通仮設工事 | 1297万 |
| | 建築主体工事 | 8231万 |
| | 設備工事 | 2億1738万 |
| | 諸経費 | 2004万 |
| | 消費税 | 1665万 |
| | 設計監理費 | 1575万 |
| 補助金 | 2億2586万（国庫：1億5057万、府：7529万） | |
| 借入金 | 1億500万 | |
| 自己資金 | 3453万 | |

7. 今後の課題

| | |
|-----|---|
| ハード | 浴室の改修、トイレの増築、重度化に伴う居室のベッド配置（片側介助となるため）各階食堂居間の備品、しつらい。居場所としての落ち着き感の醸成。 |
| ソフト | 家族および本人への了解を文書でとるための体制づくり（介護保険導入後） 新館各階を2つにわけてユニットケアを導入予定 |